長崎県地学会誌第13号（1969）

第49回（昭和44年5月18日）

大崎半島の地質（5万分の1　早岐）

山　下　信　之（佐世保市早岐中学校）

数日前から梅雨の前徴とも思われていた雨は，今朝になってすっかり晴れ上り絶好の巡検日和である。午前10時半頃には会員の元気な姿が，小串展望台ドライブインの広場に集まった。会員外の先生方の顔もみられた。

今月の巡検予定コースは，大崎半島の地質ということで，半島の東側の三越湾に面した海岸線を通り，半島の先端まで行き，そこからクジャク園の方に上り解散する計画であったが，あいにく満潮時にあたり，その上に大村湾にしてはめずらしく白波が立ち，大きい波が打ち寄せていた。そこで予定を変更し，新しくできた観光道路を通りクジャク園に直行し，逆コースをとり，午後に海岸線をみることにした。

国道205号線のクジャク園入口から，それぞれ三三五五と小グループをつくり新しい観光道路を通りクジャク園に向かい，12時半頃に到着し昼食をとり，例に従って自己紹介があり，先日選挙された新役員が紹介された。1時半頃から南端の海岸へ向かったが午後になっても波は荒く，海岸線を通るのはどうかと思われたがせっかくの機会であるので無理することになった。東まわりで通り大崎キャンプ場に全員たどりついたのは，もう午後四時でありたいへんな時間をついやした。ぜひ三越湾の奥である，半島の東側でネックにあたる海岸線をみたいと思っていたが，次の機会にゆずることにして解散した。

この大崎半島付近の基盤は，第三紀層の杵島層群であり，針尾島の中央をNW－SEの方向に切る針尾断層（落差最大400m北落ち）が川棚の方向に延びている。その断層線にそって酸性火山岩である流紋岩類が分布しているのをみると，これらの断層の弱線に貫入また噴出したものと推定されている。この流紋岩類は，佐賀県有田町地域に分布する流紋岩類と対比され，伊万里流紋岩類とか有田流紋岩類としてまとめられている。

大崎半島では，肉眼的に色や結晶鉱物，流理構造などからみていろんなタイプの流紋岩が観察される。わが長崎県では唯一の流紋岩類産地であり，標本の採集や産状等の研究には絶好の地域であろう。

クジャク園入口の案内板がある付近は，杵島層群の木原砂質頁岩層（高橋，植田，岩橋）とされる凝灰岩質の赤褐色の露頭がみられ，その上位にあたる蔵宿砂岩層とは明確に区別できる。半島のネックになる地域は，その蔵宿砂岩層となっているが，層序からは木原砂質頁岩層の上位にあたるにもかかわらず，Sea　levelからみると下位に位置するのは，小串駅北で針尾断層から分岐している（？）小断層（南落ち）がSEの方向の片島方向へ走っているためである。またこの断層のためか，小串展望台ドライブインの一帯は小規模の地すべりが認められるところである。

新しい道路を下り鉄道を越えたところから木原砂質頁岩層がみられ，その名称の通り細粒で凝灰岩質の薄層をときに挟み，層理がはっきりしない比較的軟質の岩石で混岩に近い砂岩層である。走向や傾斜の測定がむずかしく，化石も認めること

ができない。しかし三越湾の海岸では走向，傾斜もかなりはっきりし，植物破片と思われる程度のものがみられる。鉄道から３００ｍくらい進んで小高い山ぎわにさしかかる右側の切通しには，蔵宿砂岩層に貫入する流紋岩質で灰白色の凝灰岩がみられ，続いて蔵宿砂岩層と玄武岩の風化帯との接触部がある。玄武岩の礫をふくむ赤褐色の風化帯の上に灰白色の凝灰岩風化物がのっているのをカメラにおさめる会員が多かった。これより先，ゆるやかなカーブを回りながら，なだらかな下り道を半島の西海岸にでる。この間玄武岩礫をふくむその風化帯や流紋岩質凝灰角礫岩のやわらかい新しい切り通しをみるが，この中に黒雲母の結晶と流理がはっきりした流紋岩の岩体をところどころにみることができる。また角礫の中にはごく細片の黒よう石を多数見受けることができる。

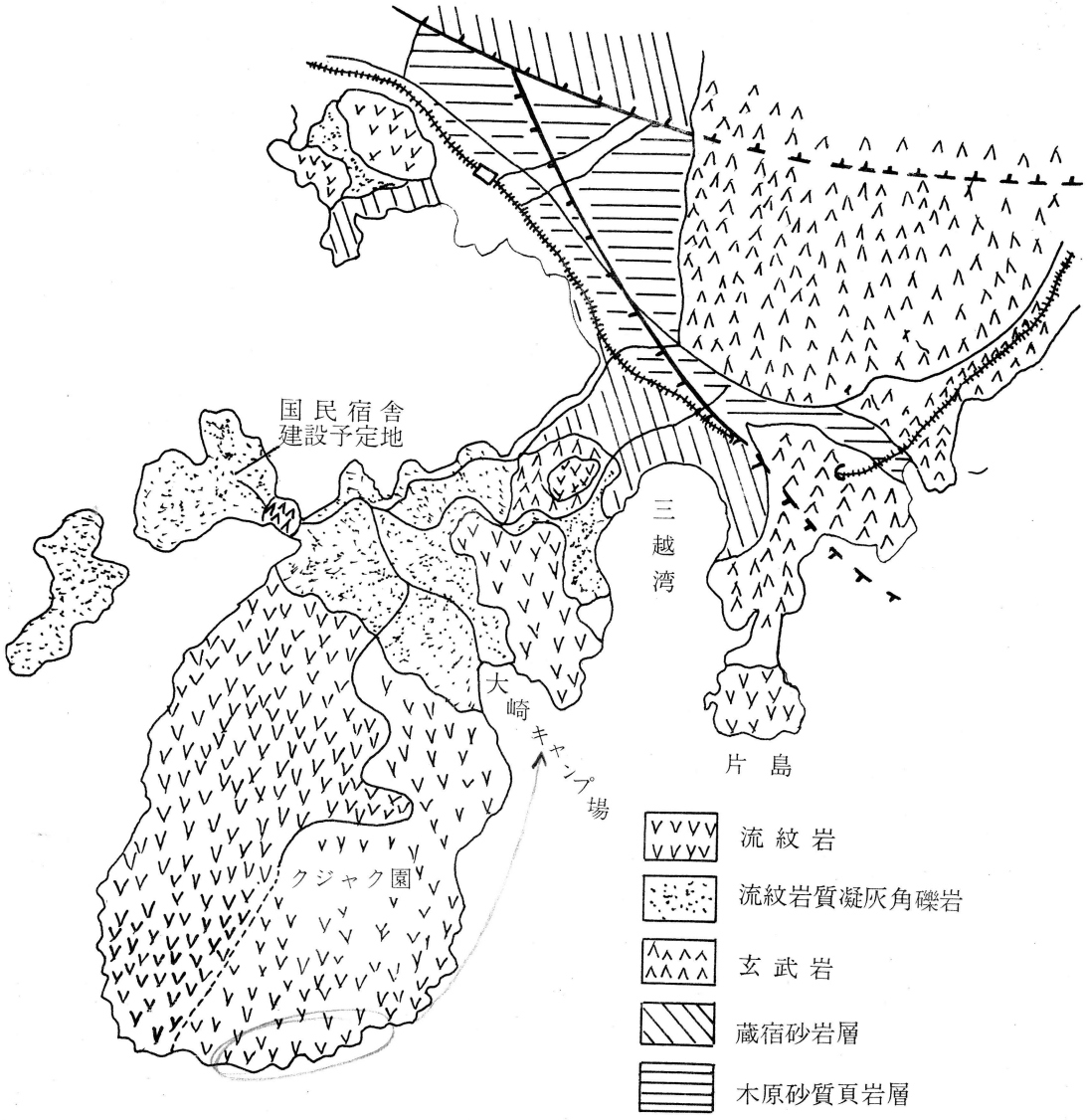
右手に行くと国民宿舎建設予定地で，道を左に曲がり約１００ｍ進んだ右側の山きわに食虫植物であるモーセンゴケの群生があり，採集したりカメラにとる会員が多かった。しかし道路拡張工事のためこの群生地がなくなろうとしているのをみて心さみしい思いがした。

さらに左手の道は大崎キャンプ場へ通ずる。そこで右手上り坂の道がクジャク園の方向であり上りはじめた。左手下に三越湾を見おろす山の中腹にさしかかると，岩相ががらりと変わり，安山岩とも見うけられる粗粒の流紋，岩の岩体や巨礫がみられる。この様なタイプの岩石をみながらクジャク園まで行く。ハンマーでたたいてみると，風化が進んでいて大変やわらかく有色鉱物などはっきり認めることができないが，多分黒雲母や角せん石であろう。昼食の後，半島南端へ山道を下り５分くらいで海岸にでる。粗粒の流紋岩は南に行く程粗粒になっている感じをうけた。

海岸にでた所で波打ちぎわに第三紀層とその上に挙大を中心に大小さまざまの円礫からなる礫層がのり，流紋岩との予整合がある。第三紀層は黄白色のシルト岩が主で細粒の砂岩層である。走向傾斜はもまれていて測定できない。海水中のごく一部の露出であるから信頼できないが，走向Ｎ50～60°Ｗ，北落ち５０°であった。円礫は流紋岩でありよく陶汰されている。これから大崎キャンプ場まで，大巨礫の岩の間を苦労しながら，難所を通りぬけた。大巨礫は流紋岩で外観的には，花こう岩の肌をみる様である。表面的に大別して，有色鉱物の多い灰色がかったものと有色鉱物の少い黄白色の二種に分けることができる。たたいてみると黒雲母と角せん石をふくみ粟粒大の顆粒状構造がみとめられる。この海岸には，黒よう岩の大きい岩脈をはじめ，真珠岩構造や球顆状構造の大きいもの，多孔質のものなど種々のタイプの流紋岩を採集することができる。黒よう石は大きくないが海岸の礫の中に混ざり，会員の中には赤味がさしたものを懸命に採集している人もあった。

最初の予定であった三越湾海岸は次の機会に残し解散したが，片島の真向かいにあたる海岸一帯は，流紋岩特有の産状をしており，その節理にしたがって幾つかの海食洞がある。その外，玄武岩や流紋岩の岩脈が第三紀層を貫いているなど小範囲であるが興味深い地質現象を観察することができる。会員の皆さんに是非おすすめしたいところである。

（参加者　２８名）


国民宿舎
建設予定地
三越湾
大崎キャンプ場
片島
クジャク園
流紋岩
流紋岩質凝灰角礫岩
玄武岩
蔵宿砂岩層
木原砂質頁岩層

大崎半島の地質概念区